



学校だより

< 家庭数 > 第 5 号
令和 8 年 9 月 1 日発行
品川区立第四日野小学校
校長 萩原 忠幸
<http://school.cts.ne.jp/hino4/>

自然体験活動の必要性

校長 萩原 忠幸

42日間の夏休みが終わり、2学期がスタートしました。朝、正門から大きな挨拶をしてくれたり、長期休みだからこそできる体験話をしてくれたり、一回り成長した子どもたちからは楽しい毎日を通じた様子が伝わってきました。一方、生活リズムや心身の調子を崩して、登校渋りが出る時期でもありますので、保護者の皆様には、就寝時刻を早める、朝ご飯を食べさせるなどの体調管理をお願いし、明るく送り出していただきたいと思います。

さて休み中、子どもと関わる仕事に従事している甥っ子と話す機会がありました。話の中に、初めて夏休みに複数の子どもたちとキャンプ場へ行き、川での魚釣りや河原でのバーベキューなど自然体験活動を実施したところ、参加するほとんどの子どもは未経験であったことや、活動前後の児童の成長はものすごく著しかったという内容がありました。

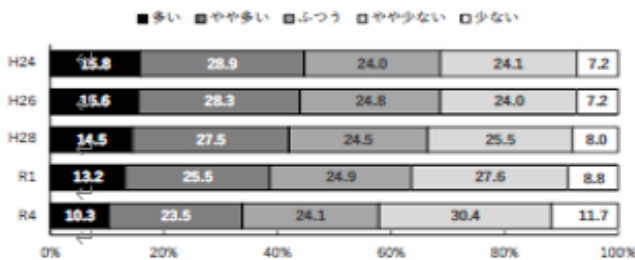


図1 自然体験の経年変化（小4～小6、中2、高2）

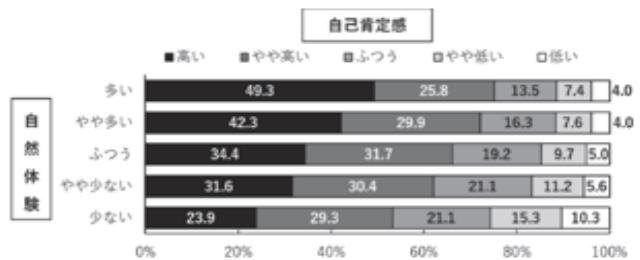


図2 自然体験と自己肯定感の関係（小4～小6、中2、高2）

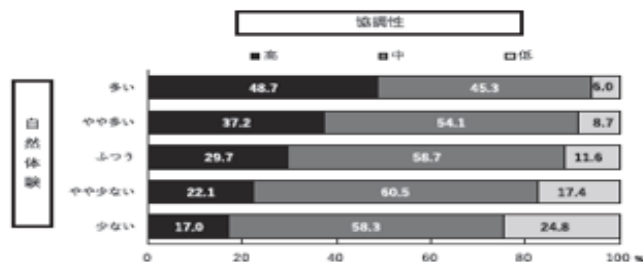


図3 自然体験と協調性（小4～小6、中2、高2）

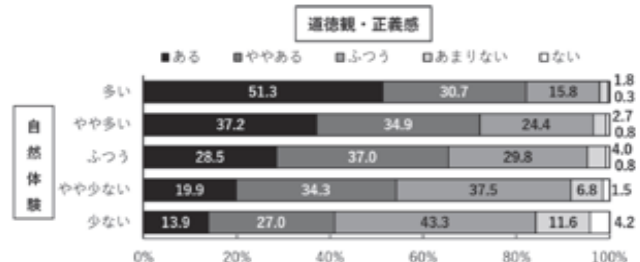


図4 自然体験と道徳観・正義感の関係（小4～小6、中2、高2）

国立青少年教育振興機構が令和6年3月に発行した「青少年の体験活動等に関する意識調査（令和4年度調査）」によると、2010年代を通じて、子どもの自然体験にやや減少傾向がみられ、コロナ渦を経た令和4年にはさらに減少していると指摘しています（図1）。また、「自然体験と自己肯定感の関係」等（図2,3,4）の結果を見ると、自然体験が豊富な子どもほど、「自己肯定感」が高く、「協調性」「道徳観・正義感」が身に付く傾向があるようです。他にも、この調査では「自立的行動習慣」や「探究心」「積極性」といった非認知能力を高める結果が出ていました。

時に触れ、少子高齢化や地球環境の有限性を踏まえた持続可能な社会など、誰もが未知で未経験の社会を前例や前提条件なしに創り上げなければいけない今の子どもたちにとっては、テストの点数など数値で表せる力である「認知能力」を伸ばすとともに、数値では測りにくい能力「非認知能力」を育む大切さをお伝えしてきました。

自動化されていない自然の中での体験は、気候や動植物の影響など常に変化している空間で行うので、子どもは自然と環境の変化を認識し、様々なことを想像して過ごさなければなりません。まさに、自然体験活動は現在の日本のような先行き不透明・予測困難な時代を生き抜く子どもたちに求められていることではないでしょうか。ぜひ、今後の休みの計画の一つとして考えていただければと思います。

9月の生活目標

「健康に気を付けて生活します」

今日から学校にも久しぶりに元気な子どもたちの声が戻ってきました。1ヶ月以上各ご家庭で生活していた子どもたちに、新学期が始まるにあたり、学校での「習慣」を思い出し、切り替えていく指導をすすめていきます。

時間を見て行動する事や、学習の準備、姿勢の維持等、学校生活ならではのものが多々あります。健康に気を付けて生活を送る四日野っ子たちを、ご家庭と学校で協力して育てていきたいです。2学期もよろしくお願いいたします。

【お知らせとお願い】

【よんひの自由研究展】

9月10日(木)～24日(木)、平日15:30～16:30

(個人面談がある日は、13:45～16:30)

が保護者の鑑賞時間です。1階 かむろ坂ホール に展示しております。ご覧ください。尚、安全管理のため、鑑賞時間以外は、会場を施錠します。

【品川コミュニティ・スクール DAY】

8月26日に、校区教育協働委員、地域・保護者の方々代表委員児童11名が、「楽しいよんひのについて語ろう」というテーマで話し合いを行いました。子どもたちが、真剣に考えていること、自分の考えをしっかりと伝えられることに、感心していました。